

旧制松江高等学校教師

# カルシュの足跡を追って

若松 秀俊

◇3◇

を吸収するために外国語が不可欠であった。中学生のころは英語を学び、高校ではより深く外国語が教え込まれた。

重要な教科であったし、どの高校にも外国人がいたようである。高校によってはフランス語も

じ形で並んで建った双子の家の家であった。最初はドイッ語講師のプラーゲと距離まで正確に把握しな英語講師のバウマンが住いた。これが大正十四(一九二二)年から昭和十四(一九三九)年までカルシュ一家が住んでいた住居である。大正九年十一月、松江高等学校官制が定められ、翌年五月に起工の運びとなり、十一月十八日、同校が設立された。

## 住居と庭

(上)

この時期にプラーゲのチの先生であったようだ。このあたりは、四期系か理科系に分類した。さらに外国語の選択によって英語(甲)、ドイツ語(乙)、フランス語

# 渡りに船の松江赴任

これに続いてこの住居が新築され、落成したのが同十三年十一月二十九日である。官舎として同

文乙生の柴田午郎や米田

勇次郎らも語っている。当時の高校生が大学に

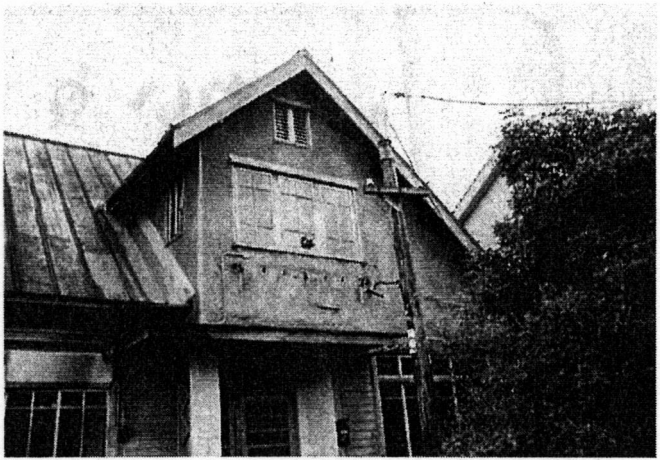
に生徒の学んだ時期を付

した和歌山商業高等学校

に赴任することになった

が当時の様相と全く異なる。ぜひ修繕して、当時の様子に近づけ、調査資料や家具調度、人形、絵画、写真、研究成果を保存できるようにしたのかは分からない。とにかく、ラフカディオ・ハーンのことや砂場がよく遊んだといふ。庭には藤棚があり、初夏には藤の花が咲き乱れた。それにイチジクやビワの木が植えてあった。妻エンメラにとって、庭を整えるのが日課であったという。

(東京医科歯科大学大学院教授)



カルシュの住んだ松江市奥谷町の官舎

屋裏一から、松江高等学が当時の様相と全く異なる。ぜひ修繕して、当時の様子に近づけ、調査資料や家具調度、人形、絵画、写真、研究成果を保存できるようにしたのかは分からない。とにかく、ラフカディオ・ハーンのことや砂場がよく遊んだといふ。庭には藤棚があり、初夏には藤の花が咲き乱れた。それにイチジクやビワの木が植えてあった。妻エンメラにとって、庭を整えるのが日課であったという。

この地でメヒテル、ゴットフリート、フリーデルンの三人が生まれた。残念ながらゴットフリートは生後一週間で亡くなったので、当時の父母の嘆きを想い出すが、庭いじりは心の慰めであったという。

カルシュの住んだ官舎は現存するが、家の内外

カルシュの住んだ官舎